

News Letter

Center of Research for CMM
(Creative Music Making)

第1回 CMMニュースレター

第1回CMM研究会にご参加いただきまして本当にありがとうございました！！
大変遅くなりましたが、ニュースレターとして第1回CMM研究会の活動報告をさせていただきます。

第1回CMM研究会 Center of Research for Creating Music Making
文教大学東京あだちキャンパス はなはたステージ
令和3年12月19日(日)14時～16時 晴天

【CMM研究会発足によせて】

音楽づくりに関しては、日本で1980年代初頭の頃から、尊敬するすばらしい諸先輩方によって実践的な積み上げがなされてきました。しかし、歴史的・理論的研究の蓄積という面では、決して十分とはいえない面もまだあります。

音楽づくりとは、創造性を発揮しながら自分（たち）にとって価値ある音や音楽をつくる活動ですが、これからの『創造社会』に生きる子どもたちにとってこの主体的に創造し、思考し、表現する活動は今後ますます重要になってくるでしょう。

そこで、諸先輩方がこれまで積み上げてきた数々の音楽づくりの実績から学び、またそれを大切にしながら、新たな視点で、それぞれの立場の方々と協働し、子どものAgencyを引き出す多様で楽しい音楽づくりの活動について考えていきたいと思います。また、音楽づくりの理論面でのさらなる進化も追求していきたいと考えています。



【第1回 CMM研究会活動報告】

第1回CMM研究会には、全国各地から（熊本、京都等を含む）音楽教育界の第一線でご活躍中の著名な実践者および研究者合計18名の先生と音楽之友社、教育芸術社の方も参加して下さいました。

プレゼンターの仲条幸一氏は「音楽教育におけるICTの活用について」をテーマにご講話下さいました。

前半では、AIが発展していく中での「人間らしさ」や、人間が演奏することの価値について、学校教育の現状と課題を「Society 5.0」「個別最適化」「ICT」といったキーワードを中心に概観することができた。後半のワークショップでは、参加者が実際にiPadのアプリを使って音楽づくりを体験した。まず、参加者が4つのグループに分かれ、2021年に新しく建設された文教大学あだちキャンパス内をサウンドウォークしながら、見つけたサウンドスケープをiPadに録音した。キャンパス内の植物で音を奏でたり、残響が長く発生する場所で手拍子を鳴らしたりと、それぞれグループがそれぞれの場所で、空間に耳をすまし、工夫して音のサンプルを作成しており、新しいキャンパスに耳をすましながら、先生方と音の素材をつくる楽しい時間であった。その後、iPadに録音した音素材を即興的につないで表現したり、重ねたりしながら音響構成的な音楽づくりを体験した。ワークショップ後は、質疑応答と、今回用いたアプリケーションの可能性についてディスカッションを行った。

後半では、なごやかな雰囲気の中で、各分野でご活躍の先生方一人ひとりが自己紹介をし、今後のCMM研究会とこれからの音楽教育について和気藹々と語り合った。

【CMM研究会の目指す姿 [近藤真子より]】

学びの共同体として：「ピラミッド型ではなく球形の学びの共同体を目指したい！」



ピラミッド型ではなく球形を目指すという思いがあります。ベースにある考え方は、レーヴ&ウェンガーのLPP正統的周辺参加です。

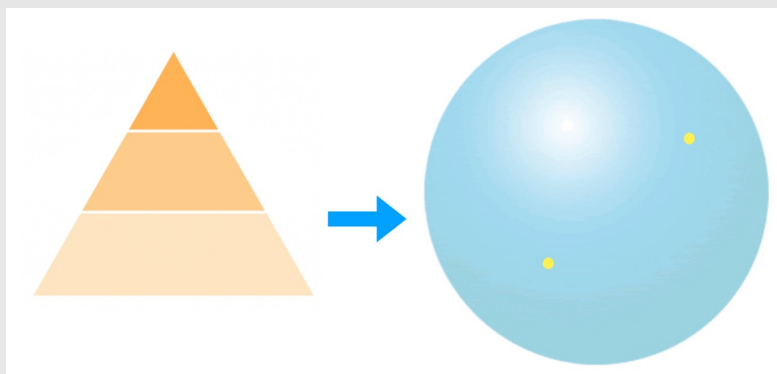
「学びは変化・変容である」(英語：transform) (1991, Lave & Wenger) と捉えると、学びは決して個人の頭の中だけでおこなうのではなく、実践と協働、かかわりの中にあるといえます。そして、一つの正しい考え、核や中心があるのではなく、複数の多様な考え、様々な関わり方、参加方法があり、それによって学びの質やレベルが変わってくる…すなわち、個々の好奇心や目的に応じた学びがあるという考え方です。

CMM研究会では、一人一人がそれぞれの立場で学び、変化・変容していくことを目指したいと思います。例えば、今日の仲条先生の講話においては、「聴く」「一緒につくる」「ディスカッションする」など、色々な方法で参加しました。

参加者の皆様の中には「幼児教育」「ICT」「音楽づくり」「個別最適化」などそれぞれ違った関心事があったと思います。各自の興味・関心のあるキーワードは違うけれども、それぞれの立場から、仲条先生のお考えを少しでも理解したいと思い、新しい知識を吸収して自分の中の何かが少し変化したのではないのでしょうか。それが学びだと思ふのです。色々な考え方、関わり方の中で、お互いを尊重し合い、実践や研究をご一緒にしていけるグループというのが理想ではないのでしょうか。

そのような在り様が、これからの学び方であると思います。参加者がかかわりを通してお互いに貢献する(学びあう)。他の先生方の違う視点からの学び、あるいは、そこから新たなプロジェクトを立ち上げるなど、個の成長が共同体同士の成長につながるというイメージです。

ですから、CMM研究会では誰もが同じ立場で話ができて、平等に意見が述べられることを大切にしていきたいです。興味をもった人が誰でも参加でき、様々な立場、様々な関わり方で参加して頂き幸せに学んで(変化して)いただきたい。少し欲張りですが、将来的には、日本の音楽教育のすばらしい面を海外に配信し、さらにグローバルな国際レベルで、世界の教育者・研究者仲間たちと共にこれからの音楽教育を考える…そのような視点も大切にしていきたいと思います。



Legitimate peripheral participation (LPP) 正統的周辺参加

Center of Research for CMM (Creative Music Making)

第1回 CMMニュースレター

最後に、私の大好きなquote をご紹介します。

『私たちがつくる世界や、そこで経験することは、まるで山や川のようにです。

山や川がつくりだす世界は、お互いその美しさを反映し合っていますが、それぞれが各々の形を持ち、ちゃんと自分の役割を果たし存在します。山と川は互いに重なり合い一つの美しいフォルムをつくりますが、互いの領域は区別されています。お互いに相手を変容させることはできませんが、自分を変容していくことはできるのです。』

”The world as we shape it, and our experience as the world shapes it, are like the mountain and the river. They shape each other, but they have their own shape. They are reflections of each other, but they have their own existence, in their own realms. They fit around each other, but they remain distinct from each other. They cannot be transformed into each other, yet they transform each other.” (Wenger, 1998, p. 71)

【参考文献】

”Situated learning: Legitimate peripheral participation” (1991, Lave, J. & Wenger, E.)

(記録：荻野靖子 文責：近藤真子)



<第2回CMM研究会のご案内>

第2回CMM研究会のテーマは『子どもの創造性と感性を磨く音楽づくり』です。

また皆様とお会いし、熱く語りあえたら嬉しいです。ご参加いただけますよう、よろしくお願いたします。

◆お申込み：<https://forms.gle/3GNJ6LZLsi5468qj6>

◆お問い合わせ

問合せ・受付担当： 岡部 昌代

メール：cofr.cmm.2021@gmail.com